参考1　　笠間市内の主な観光資源

資源の種類	エリア	名　称	概　要
自然資源	笠間	つつじ公園	佐白山の近くにある公園で、市民の一株運動に端を発した公園です。山頂からの眺望が美しく、季節には約 7ha の敷地に 25 種類 8,500 株のつつじが咲き誇ります。
	笠間	佐白山麓公園	佐白山の西麓、笠間藩の下屋敷跡に造られた公園。春には桜、夏には緑に包まれ一年中自然が満喫できます。
	友部	北山公園	山間の池に映り出される四季折々の自然が美しい公園です。池に沿って遊歩道が整備されているほか、展望塔やローラー滑り台などの遊具があり、ご家族連れに好評です。
	岩間	あたご天狗の森	桜の名所として名高い愛宕山にあり、公園内には、天狗伝説を再現したオブジェや天狗のキャラクター像が点在します。その他、ログハウスの宿泊施設「スカイロッジ」や展望デッキ、ローラー滑り台等が整備されています。
	岩間	野口池湿原	自然環境保全地域でミヅオトギリ、クサレダマ等が群落をなす低層湿原でハッチョウトンボ、オゼイトトンボ等が生息しています。
	笠間	桜（佐白山麓公園）	佐白山西麓の笠間藩下屋敷跡の公園で、笠間随一の桜の名所です。
	友部	桜（北山公園）	公園内には、ソメイヨシノ、サトザクラ(八重)、シダレザクラ等、約 1,300 本があり、開花時には多くの花見客でにぎわいます。
	岩間	桜（愛宕山）	中腹から山頂(306m)にかけて 17 種類約 2,000 本の桜があり、標高差に応じて順次開花するため、花見の期間が長いのが特徴です。また、関東平野を一望できる桜の名所としても知られている。
	友部	シダレザクラ（大田町地内）	隣接する 3 つのお寺（完全寺、光明寺、唯信寺）にシダレザクラの大木があり、開花時には多くの花見客が訪れます。
	笠間	シャクナゲ（鳳台院）	境内には、約 17,000 本のシャクナゲがあり、最盛期には色とりどりの花が咲き誇ります。
	笠間	八重の藤・大藤（笠間稲荷神社）	境内にある二株の藤は樹齢 400 年以上で、県の天然記念物に指定されています。うち一本の八重の藤は、花がぶどうのように咲く、実をつけない珍しい種類です。
	笠間	かたくり群生地（福原地内）	筑波山, 加波山に連なる吾国山の中腹に位置し、春先に咲き誇るカタクリの花の美しさは, 吾国山を訪れる人に心安らぐ時間を与えます。
	岩間	すずらん群生地（上郷地内）	すずらん群生地は笠間市上郷の長沢地区から登りはじめて約 15 分で着きます。一見するとただの草むらですが、葉の下には小さな花を咲かせており、ゴールデンウィークの頃には、この

			一帯をすずらんが埋めつくし、さわやかな香りを放ちます。
	笠間	ヒメハルゼミ （片庭地内）	笠間氏歴代の菩提寺とされている楞厳寺の裏山一帯は、国の天然記念物に指定されているヒメハルゼミ(姫春蝉)の発生地になっています。
歴史資源	笠間	笠間稲荷神社	1350 有余年の歴史があり、胡桃下稲荷・紋三郎稲荷とも呼ばれる笠間稲荷神社は、日本三大稲荷神社の一つで、広く全国より信仰を集め、年間 350 万人以上の参拝客が訪れます。
	笠間	出雲大社常陸分社	島根県出雲大社より分霊を拝戴し、平成 4 年に竣功した新しい神社です。大社造りと呼ばれるご本殿や重さ 6ｔの注連縄のかかる拝殿は圧巻です。
	笠間	西念寺	山号を稲田山と称する西念寺は、親鸞聖人が開いた浄土真宗ゆかりの地です。聖人は、40 歳から 60 歳まで、恵信尼と 6 人の子供たちと共に家庭生活の本拠をこの稲田の地に構え、本典「教行信証」を書き上げました。
	笠間	笠間城跡	笠間城は、天守曲輪を持ち、石垣が構築された城郭として注目されている山城です。自然の地形を利用した曲輪、空堀と櫓、門、橋、塀などによって「守るに易く、攻めるに難い」山城でした。
	笠間	佐白山観世音寺	佐白山麓にある普門宗の寺。「佐白山縁起」によれば、開創は白雉 2 年(651 年)とされています。本尊は、十一面千手観音菩薩で、坂東 33 観音札所の第 23 番札所になっている古寺です。
	笠間	大石邸跡	「忠臣蔵」で知られる大石内蔵助の祖父で、笠間藩家老・大石良欽の邸宅です。
	笠間	楞厳寺	臨済宗妙心寺派の寺で、号は仏頂山。笠間氏の菩提寺で山門は室町時代中期の建築、また、木造十一面千手観音像は共に国指定の重要文化財です。
	岩間	愛宕神社	愛宕山の山頂にある愛宕神社は、日本三大火防神社の一つといわれており、創建が大同元年(806 年)と伝えられている歴史ある神社です。
	岩間	合気神社	合気道の開祖・植芝盛平翁が昭和 10 年代に厳しい修行を重ね、合気道を完成させた地として創建したとされています。神社の向かいには、合気道場があり、世界各地から修行に訪れます。
	岩間	羽梨山神社	延喜式内社常陸 28 社の一つで、平定盛ゆかりの社として知られています。
	友部	北山不動尊	宝亀 8 年(777 年)に徳一大師が、養福寺を開基した際、大師についてきた行者が北山にこもり、終身不動尊を念じながら災害除去を祈願した所といわれています。

	岩間	滝入不動尊	通称「滝前のお不動様」と呼ばれ、裏から流れ込む沢水を滝のように流しており、昔はこの滝に打たれると頭の病気が治るといわれ、遠方からも信者が訪れたそうです。現在は、合気道の修行で外国人もこの滝に打たれている光景が見られます。
芸術資源	笠間	笠間焼	江戸安永年間(1772～1781 年)より育まれてきた伝統美に現代の鋭い感覚を加えた笠間焼は、伝統工芸品から現代的クラフトまで、暮らしに根を下ろした生活用品を幅広く生み出しています。また笠間は、手作り本位な姿勢をとり続ける産地として脚光を浴びています。
	友部	宍戸焼	宍戸焼の祖、山口勘兵衛が寛政７年(1795 年)に宍戸窯を開窯、この宍戸窯で学んだ陶工により現在の平清水焼(山形県)や小砂焼(栃木県)が開窯されたとされている。明治２年よりそれまでの宍戸焼・手越焼・箱田焼を笠間焼に統合し販路を拡張し現在に至っています。
	笠間	笠間芸術の森公園	自然と芸術が融合したテーマパーク。園内には、陶炎祭などが開催される「イベント広場」や、コンサート会場となる「野外コンサート広場」、陶造形物を屋外展示した「陶の杜」、子供たちに人気の「あそびの杜」があります。
	笠間	笠間工芸の丘	ロクロや手ひねりで作品を作る体験工房や、笠間焼作家の展示室、人間国宝「松井康成」の常設展示室、笠間焼を中心としたお土産コーナー、カフェラウンジなどの施設があります。
	笠間	茨城県陶芸美術館	東日本初の陶芸専門の県立美術館。国内外の優れた作品を鑑賞できる「企画展」、人間国宝などの名品による「コレクション展」、県内で活躍中の作家を紹介する「現代茨城の陶芸展」が楽しめます。
	笠間	匠工房・笠間 （県窯業指導所）	歴史と伝統を誇る「笠間焼」の振興、技術者の育成を図るとともに、誰でも気軽に訪れ、陶磁器や石材の魅力を肌で感じ取れるような「開かれた試験研究施設」です。
	笠間	笠間日動美術館	昭和 47 年に日動画廊創業者のゆかりの地・笠間に創設。年数回の企画展のほか、常設展では所蔵の国内外の名品、作家のパレットなどが展示されています。
	笠間	春風萬里荘	陶芸、料理、絵画など多方面に才能を発揮し、「万能の異才」として知られる北大路魯山人がかつて住んでいた民家を、昭和 40 年に北鎌倉から移築。館内には、魯山人遺作の名品が展示されています。
	笠間	笠間稲荷美術館	笠間稲荷神社の裏手にあり、奈良の正倉院を模した高床式平屋建ての建物で、昭和 56 年に開館。館内には、笠間焼の古陶が常設展示されているほか、信楽をはじめ中世六古窯の古陶器な

			どが展示されています。
	笠間	田中嘉三記念館	日本画家・田中嘉三の作品を展示するため、遺族が芸術の村に建てた私設記念館。
	笠間	白凛居	我が国初めてのイコン画家・山下りんの資料収蔵館です。
文化資源	笠間	笠間稲荷ばやし	「笠間稲荷ばやし」は、お稲荷さんのおつかいである三匹の白いきつねがたたく太鼓です。悪霊を払い、やがて来る秋には豊かな実りと人々の幸せを願う祈りが主題です。
	岩間	岩間ばやし	勇壮な獅子舞と太鼓の響き、そして底抜けに明るいひょっとこのリズムは、多くの見物客を魅了します。
	友部	大杉ばやし	笠間市住吉に伝わる、ひょっとこやおかめが囃子に合わせ、山車の上で踊るもの。かつて住吉の八雲神社の祭礼で披露されていましたが、現在は、保存会の指導により地元・北川根小学校のクラブ活動で受け継がれています。
	友部	小原ひょっとこ	笠間市小原に伝わる、華やかな山車の上で、「ひょっとこ」「おかめ」「きつね」がそれぞれ太鼓や横笛、カネの囃子に合わせて繰り広げるユーモラスな「ひょっとこ踊り」です。
	岩間	塙家住宅	18 世紀頃に建てられたと推定され、外観は曲家に似ていますが、よく見ると独立した２棟が棟を接して建っている「分棟型」民家という珍しい形式のものです。国指定の重要文化財です。
	岩間	宍戸藩陣屋表門	宍戸藩陣屋にあったものを、明治になって土師の塩畑家に移築。正面の大扉の上の冠木には、「葵の紋」が飾られています。
	友部	歴史民俗資料館	旧宍戸町役場の庁舎を利用したもので、歴史を感じさせる建物の内部には、旧友部町の古墳や宍戸城などのコーナーがあります。国指定の登録有形文化財です。
	岩間	愛宕山の天狗伝説	愛宕山が岩間山といわれていた頃、筑波山、加波山と並んで、ここは天狗の修験道場の一つでした。「十三天狗」と呼ばれる天狗たちは、羽団扇を持って雲に乗り、大空を矢よりも早く飛び、妖魔を打ち払い、厳しい修行で身につけた術によって、重い病人を救ったり、天候を予知して作物の豊凶を占ったりして人々を幸せにしていたということです。
	岩間	合気道のふるさと	吉岡地区には、日本で唯一の合気道の神社（合気神社）があり、合気道の祖・植芝盛平翁がこの地で修行し、生み出したということもあって、合気道が盛んです。合気道は、古流柔術の大東流合気道柔術から発展したものといわれ、世界中から人が集まり、ここで修行をしています。
	友部	音楽によるまちづくり（ｸｰﾙｼｭｳﾞｪｰﾙ	フランスの高級リゾート地・クールシュヴェールで、毎夏、世界トップクラスの音楽家たちに

		国際音楽ｱｶﾃﾞﾐｰ)	よって開催される世界有数の音楽講習会のレッスンカリキュラムを踏襲し、「クールシュヴェール国際音楽アカデミーin かさま」として、県教育研修センターで毎年行われております。
環境資源	全域	涸沼川	笠間市北端の国見山に源を発し、旧七会村から笠間市域を蛇行して流れ、涸沼に入り、さらに大洗で那珂川と合流します。
	岩間	ホタル鑑賞 （駒場地区）	笠間市上郷を流れる随行寺川の源流周辺の駒場地区では、「駒場ホタルの会」を設立して、ホタルの保護・育成活動を行っています。
	笠間	ホタル鑑賞 （南指原地区）	南指原地区の休耕田を活用して、ホタルの保護育成活動を展開しています。
	友部	ホタル鑑賞 （北山公園）	北山公園に生息するゲンジボタルを保護しようと、地元住民を中心としたボランティア会員により、ビオトープの整備を通した保護活動を行っています。
	友部	ビオトープ天神の里	南友部地区の田那場池周辺を地元ボランティアにより、自然あふれる「ビオトープ天神の里」として整備されています。
産業資源	笠間	稲田みかげ石 （石切り山脈）	ビルなどの建材用の石材から墓石まで幅広く利用されている笠間市稲田のみかげ石。頑丈な上に白色で美しい光沢が人々を魅了し、その品質の良さは全国的に有名です。また、笠間市稲田を中心に、東西 8km、南北 6km にもわたる採掘現場は、通称「石切り山脈」と呼ばれ、その白く美しい採掘現場の景観は、まるで壮大な石の屏風のようです。
	笠間	石の百年館	日本最大のみかげ石の産地である笠間市稲田に、採石の歴史を残す貴重な資料館です。
	岩間	東大牧場 （東京大学農学部付属牧場）	36.5ha におよぶ広大な敷地の中に、サラブレッドをはじめ、数多くの動物が飼育されております。
	笠間	笠間の芸者衆	宴は美人のお相手で、笠間女はやさしさいっぱい。心意気・芸が違います。粋で陽気な芸者衆でお楽しみください。
哲学資源	笠間	親鸞と西念寺 （教行信証）	親鸞聖人が本拠を構えたことから、今の笠間市稲田は、浄土真宗発祥の地とされ、別格本山・西念寺があります。90 年余りの生涯を布教活動に費やしてきた親鸞は、現実の苦しみから救いを求める民衆に「何よりも阿弥陀仏の救いを信じて、ただ一心に念仏することで救われる」と説いて教えました。「教行信証」は、稲田の草庵で書きました。
	笠間	藩校時習館	笠間藩主･牧野貞喜は幕府の役職を辞退し､藩内の財政再建･産業の興隆に専念し､人材の育成を目指し 1750 年に藩校（時習館）を創設しました。
人物資源	笠間	親鸞	救いを説いた浄土真宗の開祖。聖人は、40 歳か

		(1173～1262)	ら 60 歳まで、恵信尼と 6 人の子供たちとともに家庭生活の本拠を笠間市稲田に構え、本典「教行信証」を書き上げました。
	笠間	笠間時朝 (1204～1265)	笠間氏の祖。1219 年ごろに佐白山に笠間城を築城。1235 年に鎌倉幕府の御家人となり、1241 年には検非違使となって、新治東部を領していました。 また、時朝は領主として領土平安祈願を願って笠間の寺へ造仏したり、鹿島神宮に唐本一切経（県指定文化財）を奉納した信仰心厚い人でした。
	笠間	加藤桜老 (1811～1884)	常陸笠間藩の儒学者。水戸藩の会沢正志斉の門下となり、長州藩の高杉晋作の推挙で長州藩に出仕しました。そこで、人材育成や著述に専念しました。
	笠間	小野友五郎 (1817～1898)	笠間藩士の五男として誕生。幕府では、暦作りのための測量に力を発揮し、1860 年には、勝海舟とともに「咸臨丸」に乗り込み、アメリカへの渡航を果たします。帰国後も数々の業績を残し、勘定奉行並にまで出世しました。
	笠間	田中友三郎 (1829～1913)	明治のはじめ，美濃で焼きものの行商人をしていた友三郎が笠間に在住し、当時「箱田焼」「宍戸焼」と呼ばれていたものを「笠間焼」という名称で売り始めました。生産の拡大と販路の拡張に努力し，やがて笠間焼のすりばちは国内の市場を独占するようになりました。明治の中ごろから大正時代にかけて、友三郎らが中心になって、陶器製造組合や陶器伝習所が作られ、後継者の育成に取り組みました。
	笠間	山下りん (1857～1939)	日本で最初の女流洋画家。工部美術学校時代にロシア正教宣教師ニコライの洗礼を受け入信し、ロシアのペテルブルグの修道院でイコン画（聖画）の修行を開始。帰国後、イコン画家として明治から大正にかけて建てられた聖堂のために、多くのイコン画を描きました。　大正 7 年、笠間に帰郷後は、一切絵筆をとることはありませんでした。イコン画に生涯を捧げたりんは、晩年には悠々自適な生活を過ごしたといわれます。
	笠間	鍋島彦七郎 (1863～1928)	東京で石材問屋を営んでいた彦七郎は，明治 30 年に稲田石の採掘権を譲り受け「鍋島商店特有花崗石」として売り出しました。このとき，東京に向けて石材を輸送するために造られた稲田駅の誕生にも，私財を投じるなど尽力しました。その後，非常に安価で品質のよい稲田石が，関東硬石界の王座を占めるようになり，全国にその名を知られるようになりました。これは，彦七郎による関東石材界の画期的な大変革でありました。 稲田石を使った著名な建物を挙げると，国会議事堂，国立博物館，東京駅，靖国神

			社などがあります。
	笠間	木村武山 （1876～1942）	狩野派の奥義を学んだ武山は、明治 39 年に岡倉天心、横山大観らとともに茨城県北端の五浦海岸に移り、創作活動に励みます。第 1 回文部省美術展覧会に出品した「阿房劫火」が入賞。日本画家第一人者の地位を築きます。武山は「仏画の武山」と称されるほど仏画に優れていました。高野山金堂壁画をはじめ、晩年には笠間にある大日堂の壁画に情熱を捧げました。
	岩間	植芝盛平 （1883～1969）	合気道の開祖･植芝盛平は、和歌山県田辺市に生まれ、剣術や柔術等いろいろな武術を修業され、昭和初期に近代武道として合気道を創始されました。昭和 19 年から 20 年にかけて笠間市(旧岩間町)吉岡に合気神社と茨城支部道場を創建し、合気道を完成させました。現在、合気道の聖地といわれています。
	笠間	高野公男 （1930～1956）	数々の名曲を作ってきた昭和の歌謡詩人。作詞・高野公男、作曲・船村徹のコンビで作られた作品のうち、大ヒットとなったのが、名曲『別れの一本杉』（昭和 30 年）です。現在、笠間工芸の丘にその歌碑があります。
	笠間	坂本九 （1941～1985）	「九ちゃん」の愛称で親しまれた昭和の人気歌手、坂本九。日米でミリオンセラーとなった『上を向いて歩こう』は世界中の人々に愛された名曲です。戦時中、笠間の親戚宅へ疎開し、多感な少年時代を笠間の自然とともに育んできました。結婚式を笠間稲荷神社で挙げ、その後市内をパレードしました。また、市立笠間幼稚園には、九ちゃんが寄付したピアノが今でも現役で使われています。
	笠間	松井康成 （1927～2003）	長野県に生まれた松井康成は、10 歳代後半より笠間に住み、30 歳の頃には同市内の月崇寺の住職となりました。3 年後には境内に窯を築いて中国や日本の古陶磁器研究を本格的に始め、やがて練上の技法に研究の的をしぼって、日本伝統工芸展や個展を中心に作品を発表しました。そして、1993 年にはこの「練上手」の技術保持者として重要無形文化財（人間国宝）の認定を受けるに至っています。